

ウクライナ国立バレエ
旧キエフ・バレエ
2023-2024年来日公演企画書



株式会社 光藍社

東京都新宿区愛住町23-2 ベルックス新宿ビルII 11階 TEL: 03-6457-4159 FAX: 03-6457-4259

企画営業部 戸塚、伊藤

■本企画の特徴

ウクライナ国立バレエ(旧キエフ・バレエ)来日公演の魅力

①積み上げられたブランド力

ウクライナ国立バレエ(旧キエフ・バレエ)は旧ソ連3大バレエカンパニーのひとつ

150余年もの歴史と伝統が息づくウクライナ国立バレエ(旧キエフ・バレエ)は、ウクライナの首都キエフで育まれてきた国唯一の国立劇場のバレエ団です。モスクワのボリショイ劇場、サンクトペテルブルグのマリンスキー劇場(当時はキーロフ)劇場と共に世界を席卷してきた"旧ソ連邦バレエの至宝"とうたわれています。芸術を愛し芸術家を育むこの国では、バレエ界で活躍しているスヴェトラナ・ザハーロワ、レオニード・サラファーノフ、デニス・マトヴィエンコ、アリーナ・コジョカル、セルゲイ・ポルーニン、さらにウラジーミル・マラーホフやアレクセイ・ラトマンスキーらもこの地から羽たいており、現在でも難関とされているキエフ国立バレエ学校から優秀な卒業生のみを受け入れ、高い芸術レベルを維持しています。ウクライナ国立バレエは来日公演を重ね、様々な都市で公演を開催してきたことから、近年日本でも高い知名度を誇ります。ロシアロシアで育まれたバレエの伝統を保ちつつ、美しいスタイルと抜群のテクニック、ダイナミックで迫力ある舞台が魅力とされているバレエ団です。



②劇場引越し公演

総力で魅せる“全幕”古典バレエ

今回の来日公演は、バレエダンサー、舞台スタッフ、運営スタッフ、そしてオーケストラもウクライナのキエフより来日する、いわゆる“劇場引越し公演”です。もちろん舞台装置や衣装、楽器なども、キエフより輸送しますので、現地に行かなくても、日本で本場のバレエ公演が観ることができるのが大きな特徴です。

また、今回上演する“全幕作品”は踊り、音楽、舞台美術、物語が一緒になった、総合芸術としてのバレエを楽しむことができ、舞台の世界観に入り込みやすく、バレエを見たことがない方でも映画を観るかのように楽しむことができます。また、劇場で観る舞台は格別で、ダンサー、オーケストラ、舞台スタッフが産み出す“生のバレエ”は観る人に大きな感動を届けます。



③地方バレエ公演の重要性

ハイクオリティーな舞台芸術鑑賞体験を地域のみなさまに

全国に広がる約5,000のバレエ教室には、約40万人もの生徒様があり、日本各地では数々のコンクールが開催され、昨今では受賞者の多くは世界各国のバレエ団で活躍しています。世界的にみても日本のバレエ文化は大きく発展していると言えます。しかしながら、海外の優れたバレエ団の公演は、大都市のみで公演が実施されることが多く、地方都市では鑑賞する機会がほとんど無いのが現状です。光藍社では日本全国でバレエを鑑賞する機会を提供したいという思いから、これまで数々の海外バレエ公演を日本各地で開催してきました。より多くの方が海外の質の高い芸術文化に触れ、地域の文化活動のさらなる充実に貢献できるよう努めております。



④ 劇場の看板ダンサーが出演

人気実力派ソリストが来日!

主役は劇場の看板として活躍するダンサーが来日公演でもその実力をを見せてくれます。



アンナ・ムロムツェワ

華やかな美貌と抜群のスタイルを駆使した優雅な踊りで絶賛されているダンサー。ダンスマガジンの表紙を皮切りに、インスタグラムでもフォロワーの数は3.9万人(22年4月時点)を誇るいま大人気バレリーナ!



ユリア・モスカレンコ

劇場の看板を背負うバレエダンサーのひとりで、近年バレエファンに注目されている若手ダンサー。どんな役もこなす演技力が高く評価されている。



オレシア・シャイターノワ

可憐で圧倒的なテクニックを極めるシャイターノワ。マニュエル・ルグリ版「海賊」で主役に抜擢され、ルグリ本人から大絶賛されるほどの実力の持ち主!



デニス・ニェダク

アメリカン・バレエ・シアター(ABT)にゲストとして長年活躍したのち、キエフに戻ってきたニェダク。舞台に残す圧倒的な存在感と、高身長を活かした跳躍、迫力と見応え共に満点!



ニキータ・スハルコフ

日々の鍛錬から得た美しい脚のラインとエレガントな踊り。近年飛躍を遂げ、キエフ・バレエの新時代を背負うダンサーとして活躍している旬のダンサー。



アレクセイ・チュチュニク

マリインスキー・バレエ、ノヴォシビルスク・バレエで活躍し、力をつけて帰ってきたウクライナの貴公子! 華やかな容姿と端正な踊りから、観るものを物語の中へ引き込ませてくれる。

「白鳥の湖」(全3幕)

作曲:P. チャイコフスキー 台本:V. ベギチェフ、V. ゲリツェル

原振付:M. プティパ、L. イワノフ、F. ロプホフ 振付・演出:V. コフトウン 舞台美術:M. レヴィーツカ

◆「白鳥の湖」あらすじとウクライナ国立バレエ(旧キエフ・バレエ)のプロダクションについて

■作品の背景

ピョートル・チャイコフスキーの3大バレエの中で最も有名な、そしてバレエの代名詞として広く愛されている「白鳥の湖」が初演されたのは、今から170年前の1877年のモスクワ劇場です。当時同劇場のバレエマスターを務めていたジュリアス・ライジンガーが振り付けましたが、踊りと音楽が不一致だと批判を浴び、すぐにレパートリーから消えてしまいました。

1892年、チャイコフスキーはマリウス・プティパと共に「白鳥の湖」の復活上演を目指すこととなりました。この時70歳を超えていたプティパは、弟子のレフ・イワノフと振付を分担し、1895年に現在上演されている形の「白鳥の湖」が上演されました。第1幕2場の湖のシーンはこの時にできました。



■キエフにおける「白鳥の湖」の歴史

キエフにおける「白鳥の湖」の歴史は、1920年代に始まります。1867年に国立劇場は設立されましたが、バレエ団が設立されたのは1926年で、その年に芸術監督としてキエフに招聘されたレオニード・ジュコフがキエフの舞台上で初めて「白鳥の湖」を上演しました。



その後1937年には首席バレエマスターであったガリーナ・ベレーゾワが、師であるアグリピナ・ワガノワ教授から受け継いだ経験を元に振付を改訂しました。1945年にはロシア人民芸術家のフョードル・ロプホフがバレエの幻想的な要素に着目し、ジークフリートとオデットの真実の愛の物語を魔法のおとぎ話に改訂しました。長い間パントマイムのようにと論じられてきたジークフリートとロットバルトのやりとりが踊りによって深められました。



■ウクライナ国立バレエの「白鳥の湖」の特徴

その後数回振付や演出の改訂が行われましたが、1986年ワレリー・コフトウンによって上演された「白鳥の湖」が現在でも上演されているバージョンになります。ウクライナ国立バレエが披露する本作品は、オデット/オディールと王子の心の世界の奥深くまで突き詰めていく、感動的でロマンティックなドラマが繰り広げられています。また、第1幕2場の湖のシーンでは、ロシアスタイルを受け継ぐ一糸乱れぬコールドの美しい踊りや、第2幕の宮殿の大広間で繰り広げられる各国の踊りは、洗練された見応えたっぷりの踊りが見どころになります。美しいロシアスタイルを受け継ぐウクライナ国立バレエならではの舞台をお楽しみください。



◆「白鳥の湖」あらすじ

■第1幕1場

領主に先立たれたある国の王子、ジークフリートが成人を迎えるので、国中がそのお祝いに湧いていた。宮廷の庭には領地の若者たちが、お祝いをしようと集まって来た。乾杯も済み、楽しいひと時を過ごした友人たちが去っていく。

独りになったジークフリートは、自分の将来に思いを馳せる。明日は舞踏会で花嫁を選ばなくてはならないのだ。夕闇が訪れ、空に一群の美しい白鳥の群が飛んでいくのを見た王子は、弓を取り白鳥を追って森へ向かう。



■第1幕2場

森の奥深く、神秘をたたえた湖のほとり。突然、一羽の白鳥が現れジークフリートは弓を引こうとするが、あまりの美しさに心を打たれる。白鳥は美しい乙女の姿に変身し、自分は悪魔ロットバルトによって魔法をかけられたオデット姫であると告げる、この恐ろしい魔法を解くことができるのは“真実の愛”だけだと語る。ジークフリートはオデットを救う決心をし、オデットへの愛を誓う。空が白みはじめ、オデットはロットバルトの力に引き寄せられるように湖へと戻っていく。



■第2幕

宮殿の大広間には客人たちが続々と到着し舞踏会が始まる。花嫁候補たちが次々に紹介され見事な踊りを披露する。しかしジークフリートの心は空ろなまま、オデットへの想いがつのる一方である。そこへ騎士の姿をした悪魔ロットバルトが娘のオデイルを連れて現れる。オデットそっくりなオデイルはジークフリートに微笑みかけ、魅力たっぷり自分に自分をオデットと思い込ませる。幸せに溢れたジークフリートは、結婚の決意を母親に告げ、オデイルに愛を誓ってしまう。突然ジークフリートの目に、もがき苦しむオデットの姿がうつる。オデイルはロットバルトと高笑いを残して去る。欺かれたと知ったジークフリートは絶望的に広間を飛び出していく。



■第3幕

ふたたび湖のほとり。乙女たちが不安にかられながらオデットの帰りを待っている。悲しみに打ちひしがれたオデットが戻り、ジークフリートの裏切りのことを皆に告げる。もう魔術から解かれる術はないのだ。乙女たちは恐ろしさに沈み込む。

湖へやってきたジークフリートは、オデットに許しを乞う。二人はお互いの愛を確信するが、ロットバルトは二人を引き裂こうとする。ジークフリートは勇敢に闘い、遂にロットバルトは魔力を失い、二人は永遠に結ばれる。



「くるみ割り人形」(全2幕)

作曲:P. チャイコフスキー 台本:M. プティパ(E. ホフマンの童話に基づく)

原振付:M. プティパ、L. イワノフ 振付・演出:V. コフトウン 音楽監督:A. ヴラセンコ 舞台美術:M. レヴィーツカ

◆「くるみ割り人形」あらすじとウクライナ国立バレエのプロダクションについて

■作品の背景

E. ホフマンの童話『くるみ割り人形と鼠の王さま』を題材にした、ピョートル・チャイコフスキー作曲のバレエ『くるみ割り人形』は、1892年12月6日マリインスキー劇場で初演されました。マリウス・プティパが台本を作成し、振付も担当するはずでしたが、製作段階で重い病気を患い、弟子のレフ・イワノフが引き継ぐこととなりました。他者の台本に沿って振付は困難を伴いましたが、初演は成功し、ロシア国内に留まらず、国外にまでも『くるみ割り人形』は広まっていきました。



■ソ連、キエフにおける「くるみ割り人形」の歴史

当時の物語では、クリスマスイブに少女クララがくるみ割り人形に案内されて「お菓子の国」を訪れ、パーティーをながめるというものでした。しかし、これには1幕と2幕の一貫性に欠けていると指摘され、1934年レニングラードの舞台でワシリー・ワイノーネンによって、新しい演出が生まれました。それは、クララ自身の内面的な成長を物語るもので、思春期の少女が愛に目覚めてゆく過程をクリスマスイブの夢として提示するというものでした。現在でもこの新しいテーマが基礎になっており、ウクライナ国立バレエでもこのあらすじを取り入れています。



キエフの劇場で『くるみ割り人形』は、幾度にも渡って改訂演出が繰り返されました。現在上演されている『くるみ割り人形』は、ソ連邦人民芸術家ワレーリー・コフトウンの振付、ウクライナ共和国人民芸術家のアリン・ヴラセンコの音楽監修によります。その演出は、主人公である少女クララの美しく清らかなる心や、すべてに打ち勝つ大きな愛、善意と幸運が勝利する平和をもたらす明るい夢を、叙情的かつロマンティックに表現しようとしています。



■日本における「くるみ割り人形」

日本における『くるみ割り人形』は戦後まもなく日本のバレエ団が定期的に12月に公演するようになり、定着化してきました。現在ではクリスマスシーズンに街を歩けばチャイコフスキー作曲の『くるみ割り人形』が聞こえます。本作品は日本人に最も親しまれているバレエ作品であり、様々な人形が登場したり、華やかな踊りが散りばめられているため、子供が見ても飽きずに楽しめるバレエ作品です。さらに、世界各国からバレエ団が来日公演を行う日本でも、このクリスマスシーズンに来日するバレエ団はあまりいません。クリスマスの風物詩である『くるみ割り人形』を、本格派バレエ団で楽しめる公演になっております。



◆「くるみ割り人形」あらすじ

■第1幕1場

クリスマスイブの夜。シュタールバウム家のパーティーに、客たちが集まってくる。娘のクララと息子のフリッツをはじめ、シュタールバウムの家族たちは、お客様を迎えている。そこに、人形使いで人気者の叔父ドロッセルマイヤーがやってきて、得意の魔法を披露する。続いてぜんまい仕掛けの人形たちが踊りはじめる。コロンビーナ、アルレキン、サラセン人などの踊りに、子供たちは夢中になる。

ドロッセルマイヤーは不格好なくるみ割り人形をプレゼントする。クララは一目でくるみ割り人形を気に入る。フリッツは、人形がうらやましくなり、クララからくるみ割り人形を奪い取ろうとして人形を壊してしまう。

パーティーが終わり、客たちはみんな雪の中を帰ってゆく。家族は眠りにつきましたが、クララは壊れたくるみ割り人形が心配になり、様子を見ようとツリーのそばへ戻る。クララは人形を抱き、子守歌を歌って寝かしつけながら、自分も不思議な夢の世界に入っていく……。



■第1幕2場

真夜中、真っ暗な部屋。時計が12時の鐘を打つと、クリスマスツリーは大きくなり、周りのものすべてが変化していく。突然、ねずみたちが現れ、くるみ割り人形率いる兵隊たちと戦闘が始まる。くるみ割り人形は勇ましく戦うが、ねずみの王様を倒すことができない。それを見たクララは勇気を出し、脱いだ靴をねずみの王様に向かって投げつける。ねずみの王様は倒れ、ねずみたちは逃げ去ってゆく。するとくるみ割り人形の魔法は解け、元の美しい王子の姿に戻る。王子はクララに手を差し伸べ、魔法の森に誘う。

クララの家の客間は冬の森に変わる軽やかな雪片がくるくると回り、幻影のようにキラキラと瞬きながらクララとくるみ割り人形の王子を招く。ふたりは人形の王国に向かって旅に出る。



■第2幕

クララと王子の旅は続く。その後をねずみの王様やねずみたちが追いかけていく。くるみ割り人形の王子は、勇敢に決戦に挑み、ついにねずみの王様を倒す。

クララと王子は人形の王国にやってくる。スペイン、東洋、中国、ロシア、フランス人形たちが登場した後は、華やかな「花のワルツ」が始まる。そして王子にやさしくエスコートされ、クララも踊る。二人は幸せいっぱいだ。

クリスマスの夜が終わり、目が覚めるとクララは自分の家にいた。そして目の前にはくるみ割り人形が横たわっている。“夢だったのかしら?”くるみ割り人形を優しく抱き上げたクララは、少し大人になっていた。



2019-20年ツアーの観客動員数 (*は録音音源使用公演)

日程	開演時間	開催地	演目(*は音源使用)	入場者数
12月21日 土	14:00	茨城	ザ・ヒロサワ・シティ会館	くるみ割り人形* 890
12月22日 日	13:00	東京	東京国際フォーラムホールA	くるみ割り人形 2,528
12月23日 月	18:30	宮城	東京エレクトロンホール宮城	くるみ割り人形* 1,311
12月24日 火	17:30	秋田	秋田市文化会館	くるみ割り人形* 1,124
12月25日 水	18:30	福島	いわき文化交流館アリオス	くるみ割り人形* 678
12月26日 木	15:00	東京	東京文化会館	くるみ割り人形 1,589
12月28日 土	15:00	埼玉	ウェスタ川越	くるみ割り人形* 976
1月3日 金	12:00	東京	東京国際フォーラムホールA	初夢パレエ・ガラ 2,315
1月3日 金	16:00	東京	東京国際フォーラムホールA	初夢パレエ・ガラ 2,078
1月4日 土	15:00	東京	府中の森芸術劇場	白鳥の湖 907
1月5日 日	15:00	静岡	静岡市民文化会館	白鳥の湖 974
1月7日 火	18:30	京都	ロームシアター京都	白鳥の湖 870
1月8日 水	18:30	大阪	フェスティバルホール	白鳥の湖 1,987
1月10日 金	18:30	東京	東京文化会館	白鳥の湖 1,308
1月11日 土	12:00	東京	東京文化会館	白鳥の湖 1,567
1月11日 土	17:00	東京	東京文化会館	白鳥の湖 1,854
1月12日 日	16:00	群馬	昌賢学園まえばしホール	白鳥の湖* 1,004
1月13日 月・祝	15:00	神奈川	神奈川県民ホール	白鳥の湖 1,367
合計				25,327

お客様の声

- バレエ団のレベルも高くとても感動しました。(50代/男性)
- 以前、別の団体の「くるみ割り人形」を鑑賞しましたが、こちらの方が断然素晴らしかったです。一人一人の技術はもちろん、表現力もしっかり持っていて、ファンタジーが伝わってきました。(30代/女性)
- 毎年、この時期にキエフ・バレエを観るのを楽しみにさせていただいております。今回の「くるみ割り人形」の公演をもって、チャイコフスキーの3大バレエを観終えることが出来たのですが、昨年の「白鳥の湖」も含め、そのうちの2つがキエフ・バレエでの鑑賞と中々深い縁があるようです。今回も言うまでもなく素晴らしい公演(演奏)となり、チャイコフスキーの世界を存分に楽しむことが出来ました。次の公演も期待です。(20代/男性)
- 劇場のオケ付の公演は少なくなってきているので、とても素晴らしいと思います。ゲスト目当てでしたが、キエフのダンサーにもよい印象をうけたので、演目やゲストによってはまた観たいです。(50代/女性)
- 何より、今回の公演が開催された事自体、嬉しい事でした。なかなか秋田ではバレエ鑑賞の機会が無いなかで、また日本のバレエ団ですら公演開催がない場所でクリスマスにくるみ割り人形という演目が観られました。(40代/女性)
- アンナさんの日本初のオデット、オディール、期待以上の出来で、とても感動しました。バレエが苦手な夫も主役の美しさに魅了されたそうです。アンナさんは2年前の浜松公演で知り、ファンになりました。今回も複数の公演に行きましたが、家の近くでも公演があり良かったです。来年もよろしく願います。(20代/女性)

海外の本格的バレエを東京だけでなく、様々な地域で上演することで、海外バレエ団による公演が少ない地域の方に、特に好評いただいております。

公演概要

公演名：ウクライナ国立バレエ(旧キエフ・バレエ)

来日予定期間：2023年12月21日～2024年1月15日

出演者(予定)：アンナ・ムロムツェワ、ユリア・モスカレンコ、オレシア・シャイターノワ、デニス・ニェダク、ニキータ・スハルコフ 他

指揮者(予定)：ミコラ・ジャージュラ、オレクシイ・バ克蘭

演奏：ウクライナ国立歌劇場管弦楽団

「白鳥の湖」(全3幕)

公演時間：約2時間50分(第1幕70分/休憩20分/第2幕40分/休憩20分/第3幕20分)

公演出演人数：ダンサー約70名/オーケストラ約60名

「くるみ割り人形」(全2幕)

公演時間：約2時間(第1幕50分/休憩20分/第2幕50分)

公演出演人数：ダンサー約70名/オーケストラ約60名

公演料：850万円～1,400万円(税別)

※公演買い取り以外にも公演開催に掛かる費用を一部負担などでの協力主催公演などの例もあります。お気軽にご相談ください。

※オーケストラの生演奏による公演と、音源を使用する公演で料金が変わりますので、ご相談ください。



※2021-22チラシ



※2021-22チラシ